

2020年度通常総会議案書

2020年度通常総会

一般社団法人山梨県情報通信業協会

1 議事

第1号議案 2019年度事業報告及び
2019年度収支決算書の承認について

第2号議案 役員改選について

2 報告事項

1) 2020年度事業計画及び収支予算書について

【第1号議案】

2019年度事業報告（案）

自 2019年4月 1日

至 2020年3月31日

1. 概況

平成31年度の我が国経済は、米国と中国の貿易摩擦による影響が徐々に拡大し、中国の経済成長率が鈍化し結果的に世界経済を押し下げたものの、後半、米中の歩み寄りにより回復傾向の兆しが現れました。しかし第4四半期に入り中国に端を発した新型コロナウイルスの影響が全世界に拡大し、EUから米国まで感染者、死亡者が急激に拡大しました。人から人への感染の防止目的から政府や各自治体から人の移動を厳しく制限する要請が出され、旅行、飲食、会議等の自粛を求められました。2020オリンピック・パラリンピックの開催も1年間延期されました。また、全国の小学校～大学が3月に入って休校となるとともに、選抜高校野球をはじめほとんどのスポーツが中止や延期となりました。この結果、企業の生産活動は大きく低下し、株価はリーマンショック以上値下がりして3月決算の企業の業績に大きく影響しました。

情報サービス産業は、IoT、AIの利活用が大きく進んでいる状況に変わりありませんが、新型コロナウイルスの影響からテレワークの検討が進み、実践するためのネットワーク技術（リモートデスクトップ）、セキュリティなどのICT技術やテレビ会議に必要なカメラなどの機器に対する需要が高まっています。

また、5Gの関係では国政策としては、全面的な実装ではなくローカル5Gとして特定の地点（主要企業、実施意欲のある自治体など）で実装して、より導入効果を高める方針で1兆円の予算を確保して、令和2年度から各拠点、およびキャリアでの商用化がすすめられることとなりました。

山梨県情報通信業協会は、昨年に引き続き要望が多かった採用面での活動に注力しました。インターンシップ事業では年度当初から学校訪問を行い定員30名を上回る48名の応募をいただきました。また、毎年3月に実施している企業ガイダンスについては、来場者数が低下していたため、実施時期を2月に繰り上げて実施し来場者数を20%程度増加させることができました。

対外的には、当協会の飯室会長が長年の協会の発展と山梨県内へのICT産業の貢献を評価され旭日双光章を受章、長坂副会長がJISA（一般社団法人情報サービス産業協会）の副会長への就任、井上理事がANIA（一般社団法人全国地域情報団体連合会）の理事に就任など当協会の知名度と認知度アップに大きく貢献いただきました。

今年度スタートした「女性活躍プロジェクト」では、女性の視点からYSAに対する職場環境改善の提言をまとめていただきました。参加メンバーの方々には業務を抱えながらいろいろなご意見をいただき提言書としてまとめていただきました。感謝申し上げます。

最後に、昨年 12 月に企業ガイダンスにエントリーいただいた学生の個人情報がネット上で閲覧可能となってしまうことが新聞等で報道され、会員各位に多大な御迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。個人情報の取り扱いを全面的に見直し再発防止を図ってまいります。

2. 委員会活動報告

以下、全体的な活動及び各委員会の活動について報告いたします。

総務委員会

会員企業間の人的交流や会員への情報提供など、会員企業がメリットを感じる施策を実施しました。特に今年度は、政府が進める「働き方改革」をテーマとした講演会の実施や、「女性活躍プロジェクト」の立ち上げにより職場環境の改善に向けた一歩をスタートさせました。

【会員状況】 2020. 3. 31現在

区分	期首会員数	新規加入数	退会数	期末会員数
正会員	57	1	0	58
賛助会員	6	0	0	6
特別会員	1	0	0	1
合計	64	1	0	65

※新規加入会員：(株)アイティードウ様

【通常総会】

開催日時 令和元年6月7日 16時～

開催場所 ホテル談露館

議事

第1号議案 2018年度事業報告及び2018年度収支決算書の承認

報告事項

- 1) 2019年度事業計画及び収支予算書について
- 2) 2020年ANIA全国大会の開催について

参加者 出席会員43社、委任状13社

議事

出席者は、代表者を含めて80名が参加し、第1号議案が賛成多数で承認されました。

報告事項については、理事会で承認された2019年度の事業計画ならびに予算について報告が行われました。また、2020年度山梨で開催されるANIA全国大会について概要を報告するとともに会員の協力をお願いしました。

17時からホテル談露館で来賓を含めて70名に参加いただき懇親会が開催されました。懇親会には、樋口甲府市長様、e-yamanashi政策研究会の皆様にも出席いただきご祝辞をいただき、飯室会長からは、4月の統一地方選で当選された方々にお祝いをプレゼントさせていただきました。



【理事会】

理事会は8回開催しました。特に12月には森屋顧問にお願いして、経済産業省が企画する「今後の日本のIT政策について」経済産業省商務情報政策局総務課政策企画委員 渡辺琢也氏にご講演をいただきました。また、3月の理事会は新型コロナウイルスの影響から理事会の開催を中止しました。

5月17日	談露館	11月29日	談露館
6月7日	談露館	12月5日	経産省
7月26日	談露館	1月31日	談露館
9月4日	クラウンパレス	2月20日	クラウンパレス

【納涼会・講演会】

開催日時 令和元年7月26日 16時～講演会、17時～納涼会

開催場所 ホテル談露館

講演会内容 (株)リックテレコム COMPASS編集長 石原由美子様

演題「女性が活躍する企業とその経営者」というテーマで講演をいただき女性が活躍できる環境を構築することが、企業の業績を伸ばす要因とのお話を頂いた。講演会にはYSAとして初めて10数名の女性社員の方にも参加いただき70名の方に出席いただきました。

講演会に引き続いて50名の方が参加した恒例となった納涼会が和やかに開催されました。



【YSAコンペ】

開催日時 令和元年9月16日

開催場所 境川カントリー倶楽部

会員及び関係者17名により恒例のYSAゴルフコンペが開催されました。参加された皆さんの日頃の努力と蓄積したストレスの成果(?)を発揮されましたが、優勝は中込副会長(システムインナカゴミ)、準優勝は柳本さん(ワイ・シー・シー)でした。皆様お疲れ様でした。

参加いただいた会員は以下の皆様でした。

Y S K e - c o m	ワイ・シー・シー	システムインナカゴミ	ブリリアント
ユニ・テクノロジー	ネオシステム	エヌディエス	富士通
リコージャパン	サンテレコム	コンピュータマインド	事務局

【賀詞交歓会・新春セミナー】

開催日時 令和2年1月31日

開催場所 ホテル談露館

講演会内容 総務省情報流通行政局 地域情報振興課 課長 磯 寿生様

演題「ローカル5G等を活用した地域課題の解決に向けて」として、国が目指す5Gを実現した近未来の日本の姿を紹介いただくとともに、国として特定地域、産業をターゲットとして効率的に5Gを展開させる事業の推進について講演をいただきました。山梨県内でも導入に前向きな団体もあり98名の方に参加いただきました。

講演会に続いて、山梨県幹部の皆様、樋口甲府市長様、山下笛吹市長様、e-yamanashi政策研究会の皆様をはじめ78名の方に参加いただき賀詞交歓会が開催されました。冒頭、飯室会長から、叙勲のお礼と、2020年は5Gの実用化やオリンピック・パラリンピックの開催など大きく前進する年であり、アンテナを高くして実行していくことが大切との挨拶がありました。



【外部団体との交流促進】

1. J I S A

- ◇6月11日にANAインターコンチネンタルホテルで開催された通常総会に2名参加しました。長坂副会長が副会長、井上理事が関東地区会会長に就任しました。
- ◇11月29日に関東地区会がホテル談露館で開催され、Y S A役員12名が参加しました。また、翌日30日の懇親ゴルフコンペに6名参加して交流を深めました。
- ◇1月8日に賀詞交歓会が、ANAインターコンチネンタルホテルで開催され、3名が参加しました。

2. ANIA

- ◇7月11日通常総会が、東海大学校友会館で開催され2名が参加しました。井上理事がANIA理事に就任しました。
- ◇10月17日、18日にANIA全国大会北海道（札幌）大会が開催され、役員14名が参加しました。YSAでは次期開催県として飯室会長がフラッグの引き渡しを受けました。
- ◇2月6日理事会・新春交換会が、東海大学校友会館で開催され2名が参加しました。
- ◇2月7日事務局長会議が八重洲クラブで開催され1名参加しました。

3. 広域首都圏情報団体協議会

- ◇7月5日、6日に事務局会議が福島県で開催され1名が参加しました。
- ◇メトロエリアグリーン会が霞が関カンツリークラブで開催され9名が参加しました。
- ◇11月27日事務局会議がさいたま市で開催され2名が参加しました。

4. 山梨県地域ICT推進協議会

- ◇5月17日通常総会がベルクラシックで開催され3名が参加しました。

【女性活躍プロジェクト】

女性活躍プロジェクトでは、女性の視点から職場環境の改善の提言をまとめていただきました。提言は、会員各社で採用可能な仕組みや今後検討いただくための材料を話し合っていました。会員各社で前向きに検討頂き女性が活躍できる職場環境を作ることが、定着率を上げるだけでなく山梨県のIT産業のイメージの向上にもつながると考えます。

プロジェクトの皆さま（女性）には実務を抱えながら、また、育児など時間短縮勤務の環境の中で参加いただき感謝申し上げます。さらに参加メンバーの活動にご理解いただいた会社様、職場の皆様にも感謝申し上げます。

参加いただいた方

Y S K e - c o m	小林さん（リーダー）、中澤さん
ワイ・シー・シー	諸星さん（サブリーダー）、村松さん
シップス	大原さん
ネオシステム	鈴木さん
システムインナカゴミ	窪澤さん
コンピュータマインド	窪田さん
ブリリアント	雨宮さん
エヌディエス	渡邊さん
リコージャパン	藤巻さん
事務局	奈良さん

会議開催

	開催日	開催場所	参加者
1	7月30日	アジュール	11名
2	9月26日	YSKe-com	11名
3	11月12日	ワイ・シー・シー	10名
4	12月10日	ホテル談露館	12名
5	1月17日	リコージャパン	11名

なお、会議形式だけではまとめることが難しいため、上記の会議以外にメーリングリストを活用して参加メンバーとの意見交換や調査、提言書の作成、校正を実施いただきました。2月以降は新型コロナウイルスの影響から Face-to-Face による会議は中止してメールにより提言作成のための意見交換を行いました。

女性活躍プロジェクトの提言書を送付させていただきます。

是非ご参考にしていただければと思います。

企画委員会

I T人材の確保に向けた事業を継続して実施しました。インターンシップ、業界紹介セミナー、企業ガイダンス等を通じて一定の成果を上げることができたと思います。今後は、参加数が少なかった4年制大学の学生の参加を増やすことと、今年度実施できなかったSNSを活用した情報発信を行います。

事業名	I C T人材育成支援事業 - インターンシップ
予算額	1 2 0千円
決算額	1 4 3千円
実施日	令和元年4月 ~ 令和2年3月

事業概要

山梨県内の学生（大学生、短大生、専門学校生）にI C T産業の業務内容や企業を理解してもらい人材確保を支援する。

- インターンシップ 希望する学生・会員企業を対象として短期間の企業の現場で実習を通じて理解を深めてもらう。

参加企業は12社（前年と同じ）、参加学生数は47名（前年は7校39名）となり、昨年から増加しました。学生数の増加は、山梨県立産業技術短期大学校で就職指導に力を入れたことと、インターンシップのPR活動を2か月早めたことが要因と思われます。

【受入れ会員企業】

1	(株)アイ・エス・ビー	7	(株)シブス
2	(株)アイティードウ	8	(株)シンク情報システム
3	(株)ウインテックコミュニケーションズ	9	(株)日本ネットワークサービス
4	(株)カルク	10	(株)ネオシステム
5	(株)甲府情報システム	11	(株)プリリアント
6	(株)シー・シー・ダブル	12	(株)ワイ・シー・シー

【学校別参加学生数】

1	山梨大学工学部	5名	5	山梨県立産業技術短期大学校	17名
2	山梨学院大学	1名	6	甲府商科専門学校	13名
3	山梨英和大学	3名	7	サンテクノカレッジ	4名
4	山梨県立大学	1名	8	山梨情報専門学校	3名

事業名	I C T人材育成支援事業 - 業界紹介セミナー
予算額	
決算額	
実施日	令和元年12月6日 ~ 令和2年2月13日

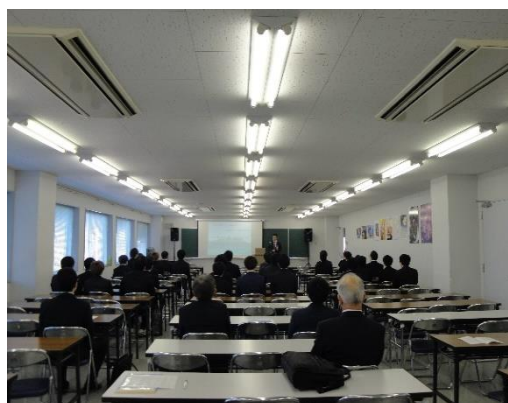
事業概要

山梨県内の学生（大学生、短大生、専門学校生）に I C T 産業の業務内容や企業を理解してもらい人材確保を支援する。

- 業界紹介セミナー 会員企業の幹部社員、若手社員が全般的な I C T 産業の動向や会員企業の若手社員により入社後に得られた成果や苦労した点、就活している学生へのアドバイスなどの説明を行う。

業界紹介セミナー

県内8校に対して説明を実施しました。参加生徒数が多い甲府商科専門学校、山梨産業技術短大、サンテクノカレッジは授業の一環として進めていただいている就職活動に学校として支援している姿勢を感じました。説明に参加いただいた企業の皆さんは、就職1～3年程度の若い方が多く、就職後の苦労話や個々の企業の特徴などを盛り込んでしっかり I T 産業をアピールいただくと同時に、人前で説明する経験を積んでいただいたと思います。



業界紹介セミナー実施結果一覧

実施した学校名	日時	参加学生数	説明企業	
山梨県立大学	2019.12.6	1名	・エスエスワイ ・カルク	・ネオシステム
甲府商科専門学校	2019.12.9	22名	・システムインナカゴミ ・カルク	・ユニ・テクノロジー
都留文科大学	2019.12.11	5名	・山梨中央銀行 ・エスエスワイ	・Y S K e - c o m
山梨産業技術短大	2019.12.17	28名	・ブリリアント ・ユニ・テクノロジー	・ネオシステム
サンテクノカレッジ	2019.12.25	31名	・Y S K e - c o m ・ブリリアント	・ユニ・テクノロジー ・シブス
山梨学院大学	2020.1.8	25名	・カルク ・システムインナカゴミ	・Y S K e - c o m ・ユニ・テクノロジー

山梨大学	2020.1.22	1名	・Y S K e - c o m ・山梨中央銀行	・シップス
山梨英和大学	2020.2.13	10名	・ワイ・シー・シー ・ユニ・テクノロジー	・シー・シー・ダブル ・Y S K e - c o m

事業名	I C T人材育成支援事業 - 企業ガイダンス
予算額	210千円
決算額	257千円
実施日	令和2年2月17日

事業概要

<p>山梨県内の学生（大学生、短大生、専門学校生）にI C T産業の業務内容や企業を理解してもらい人材確保を支援する。</p> <p>➤ I C T企業ガイダンス 会員企業の採用担当者と希望する学生による会社説明会を実施した。</p>

企業ガイダンス

例年3月に開催していたが、3月上旬には大手のガイダンスが開催されるため、来場者数は増加しない状況が続いていました。このため、今年度は2月の開催に切り替え一定の成果を出すことができ、2019年58名と比較して20%以上増加させることができました。



学校別来場者 71名

山梨県立産業技術短期大学校	28名	山梨学院大学	1名
甲府商科専門学校	22名	山梨英和大学	1名
大原学園甲府校	14名	中国医科大学	1名
専門学校サンテクノカレッジ	3名	ポリテクセンター山梨	1名

出展企業 16社

(株)アイティードウ	(株)シー・シー・ダブル	(株)ブリリアント
(株)ウインテックコミュニケーションズ	(株)システムインナカゴミ	(株)山梨中央銀行
(株)エティーエルシステムズ	(株)シップス	山梨パナソニックシステム(株)
(株)エスエスワイ	(株)日本システムコンサルタント	(株)ユニ・テクノロジー
(株)カルク	(株)ネオシステム	(株)Y S K e - c o m
(株)ワイ・シー・シー		

研修委員会

2019年度は、新入社員研修、産学官連携事業等継続して実施している研修は実施できました。また、重視しているセキュリティに関して山梨県サイバーセキュリティ研究会をY S A会員企業とともに立ち上げてセミナーを実施することができました。今後、オリンピック・パラリンピックの関係もあり引き続き実施していきたい。一方、広域首都圏情報団体協議会との交流は日程的に実施できませんでした。

事業名	2019年度新入社員研修
予算額	310千円
決算額	300千円
実施日	平成31年4月9日(火)～4月10日(水)

事業概要

会員企業からの申し込みにより、新入社員30名に対する研修（マナー研修）を実施した。

社会人としてのモラル、仕事の進め方、接遇、電話対応、来客対応などを2日間にわたって講話及び実習を通じて実施した。

研修のカリキュラムと研修終了時のアンケート結果を添付します。

意見等を参考にして実施の参考と致します。

講師 山梨県職業能力開発協会 山田 圭太氏

場所 山梨県中小企業人材開発センター

参加会員

	企業名		企業名
1	(株)ブリリアント	4	(株)Y S K e - c o m
2	(株)シップス	5	山梨パナソニックシステム(株)
3	(株)ワイ・シー・シー		



平成 31 年度 YSA 新入社員研修 - カリキュラム

4 月 9 日 (火)		4 月 10 日 (水)	
時間	内 容	時間	内 容
09:30～	オリエンテーション	09:30～	③接客 <ul style="list-style-type: none"> ・顧客満足 (CS) ・敬語 ・よく使われる動詞の敬語 ・婉曲表現 ・職場で使う慣用的な表現 ・電話対応の心構え ・取次の対応例 ・伝言メモの書き方 ・電話対応用語 (受け方、かけ方) ・携帯電話のマナー
10:00～	①社員とは <ul style="list-style-type: none"> ・学生と社会人の違い ・職場生活のマナー ・挨拶 ・会社の目的 ・会社の責任 ・会社の組織 ・会社が社会人として新入社員に求めるもの ・チームワーク 		
12:00～	昼休み	12:00～	昼休み
13:00～	②効率的な仕事の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・職場での私の立場 ・PDCA サイクル ・5つの意識 ・改善意識 ・指示・命令の受け方 ・報告の仕方 ・報告 連絡 相談 ホウレンソウ 	13:00～	<ul style="list-style-type: none"> ・来客対応と訪問の仕方 ・来客対応の心構え ・お辞儀の仕方 ・対応用語 ・名刺の渡し方、受け方 ・紹介の仕方、紹介のされ方 ・席順 ・お茶の接待 ・接客 ④ビジネス文書・メールの書き方 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書の種類と目的 ・社内文書 (依頼書) 演習 ・社内文書 (注文書) 演習 ・ビジネス電子メール ・文書の慣用語 ⑤自己啓発と行動指針 <ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義 ・仕事に取り組む意識 ・自己啓発の必要性和進め方 ・1年後の目標とこれからの行動指針
～17:00		～17:00	

平成 31 年度 YSA 新入社員研修 - アンケート

アンケート設問

- 設問 1 研修の内容、難易度はいかがでしたか
- 設問 2 テキスト、教材の内容、読みやすさはいかがでしたか
- 設問 3 講師の教え方はいかがでしたか
- 設問 4 研修を振り返って、あなたのグループはどうでしたか
 - 4-1 最もリーダーシップを発揮したのは誰ですか
 - 4-2 最もグループを盛り上げたのは誰ですか
 - 4-3 最も活躍したのは誰ですか
 - 4-4 あなたはどのような貢献をしましたか
- 設問 5 意見、感想

意見・感想

- ・ 自分の所属する企業について改めて考えるきっかけとなった。学生と社会人の違いから、社会人には「責任感」「積極性」「協調性」が必要であると改めて感じた。会社の目的をよく知ることで、一社員として他の社員と共通の目標を持ってより質の良い仕事を行えると感じた。
- ・ コミュニケーション能力、マナー作法、会社の概要等々詳しく説明して下さったので、ビジネスマナーに関して深く学ぶことができた。
- ・ あいさつは社会で生きていくにはとても重要であると同時に、多くの意味ややり方があることを学んだ。会社が新入社員に求める人材についてチームワークが一番大切だということを知った。
- ・ 他の会社の方々とコミュニケーションができた。
- ・ 知らない人などがいても自らコミュニケーションを取る重要さを学んだ。
- ・ 合同ということでコミュニケーションを多く取れる場となりとても身になりました。
- ・ 初めてお会いする方ばかりでしたが、グループワークなどではコミュニケーションをとって取り組むことができました。このような経験は、今後の仕事に大きく役立つと思うのでよかったです。
- ・ 他社の社員さんと交流することで、社会人の意識が少し高まりました。
- ・ 基本的なビジネスマナーを最初の時期に会得しておくことで、今後社内のみならずお客様に失礼のない態度を取れるため、信頼を構築する手段として、これから活かしていきたいと思う。
- ・ 研修時期は会社に入社してすぐのほうが、他の研修の間に入ってこないで良かった。
- ・ 話の聴き方によって得られる情報が変わるので、相手にたくさん話をさせて情報をたくさん得られるよう聴き上手になることが必要だと感じた。
- ・ 電話対応の練習は、実際に電話を使ってできたことで、メモの難しさ、正確に聞き取ることの大切さをより実感することができました。
- ・ 研修時期は入社してから 1 週間だったので、良い時期でした。

など参加された方から前向きな意見をいただきました。

事業名	産学連携事業 - システム開発演習講座支援
予算額	
決算額	
実施日	令和元年度（令和元年10月～令和2年2月）

事業概要

平成24年に山梨大学工学部とY S Aで締結した産学連携協定にもとづき、山梨大学コンピュータ理工学科が実施するソフトウェア設計開発演習Ⅱの授業をY S A会員の技術者が支援をおこなう。

担当教員 山梨大学 コンピュータ理工学科 鈴木教授、郷教授

支援いただいた会員

- ◇ウインテックコミュニケーションズ 清田さん
- ◇Y S K e - c o m 沼さん、穴山さん
- ◇シンク情報システム 高山さん
- ◇ワイ・シー・シー 小林さん

実施概要

- (1) 2019.8に関係者が山梨大学に集合して、進め方の概要や日程について打ち合わせを行い、別紙の概要で講義を実施することとしました。今年度はA Iに目線を置いてP y t h o nの講義を取り入れました。
- (2) 今年度のプロジェクトの開発するシステムのテーマを9月末までに決定しました。
- (3) 参加する学生をいくつかのチームに分けて、それぞれが各企業担当者および指導会員を訪問して開発するシステムの詳細（開発の背景、詳細仕様など）について打ち合わせを行いました。
- (4) プロジェクト報告会を2020年2月5日に実施してプロジェクトを終了しました。報告会では、各グループごとに、現状の課題、要求仕様をまとめて表現し、また、開発内容、詳細仕様と反省点などを参加者（指導教員、企業担当者、他のグループの学生）に説明しました。開発途中での不具合の発生状況に基づいた品質の評価などを行ったグループもあり実際の企業における開発の基礎を理解できている点が評価できると感じました。

授業科目名				担当教員		
ソフトウェア設計開発演習II				郷 健太郎		
時間制番号	単位数	クラス	履修年次	期別	曜日	時限
TCS311	2		3	後期	水	IV
[概要]						
<p>本演習では、先行科目「ソフトウェア工学及び演習I」、「ソフトウェア工学及び演習II」、「ソフトウェアプロジェクト管理」および「ソフトウェア設計開発演習I」において習得した各種の要求分析、設計、プロジェクトマネジメント、品質テストの手法を実践し、中・大規模なソフトウェアの開発を行う。ソフトウェア開発では、多くの人々がかかわって多数の成果物を限られた時間内に生成する。本演習では、複数人の学生がチームを構成し、チームの目標と期限を独自に設定し、その上でソフトウェアの要求分析、設計、実装、評価を行う。プロジェクトのプロセスはチームが管理し、問題が発生すれば解決を行う。これらの活動を通して、実際のソフトウェア開発において、何が問題でその解決が如何に難しいかを学習するとともに、開発に必要な実践的知識とスキルを修得することを目的とする。なお、本科目はPBL科目である。</p> <p>☆カリキュラム中での位置付け：コンピュータ理工学科のカリキュラム</p> <p>※ 本授業科目は、「COCコース別専門科目」</p>						
[具体的な達成目標]						
<p>以下の項目が具体的な達成目標である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームを構成して目標と期限を設定し、その上でソフトウェアの要求分析と設計、実装、評価ができる。 2. 上記のプロセスを管理し、問題があれば解決を行うことができる。 3. これらの活動を通して、ソフトウェア開発において何が問題でその解決が如何に難しいかを説明できる。 						
[必要知識・準備]						
<p>本演習では、受講者はコンピュータシステムの基礎、及び、プログラミング、ソフトウェア開発の基本的な知識を有することを仮定する。したがって、授業科目「情報処理及び実習」、「計算機アーキテクチャI, II」、「計算機アーキテクチャ演習I」、「プログラミング基礎」、「プログラミング基礎演習」、「プログラミング応用」、「プログラミング応用演習」、「アルゴリズムとデータ構造I, II」、「アルゴリズムとデータ構造II演習」、「ハードウェア基礎実験」、「データベース及び演習I」、「オペレーティングシステム」、「オペレーティングシステム演習」を予め履修し、その講義内容を充分理解していることが望ましい。また、「ソフトウェア工学及び演習I」、「ソフトウェア工学及び演習II」、「ソフトウェアプロジェクト管理」、「ソフトウェア設計開発演習I」を履修していることが望ましい。また同時期に開講される「ITシステム開発実習」を履修していることが望ましい。</p>						
[評価方法・評価基準]						
No	評価項目	割合	評価の観点			
1	小テスト/レポート	30%	演習中の提出するドキュメントで評価する。			
2	発表/表現等	70%	プロジェクト報告と成果物で評価する。			
[教科書]						
<p>鶴保征城 / 駒谷昇一, ずっと受けたかった ソフトウェアエンジニアリングの授業 (1) 増補改訂版, 翔泳社 (ISBN: 4798119326)</p> <p>鶴保征城 / 駒谷昇一, ずっと受けたかった ソフトウェアエンジニアリングの授業 (2) 増補改訂版, 翔泳社 (ISBN: 4798119334)</p>						
[参考書]						
<p>中所武司, ソフトウェア工学 -オープンシステムとパラダイムシフター-, 朝倉書店 (ISBN: 4-254-12707-3)</p> <p>中田秀基, すっけるわかる Google App Engine for Java クラウドプログラミング, ソフトバンク クリエイティブ株式会社 (ISBN: 978-4-7973-5760-8)</p> <p>三苦 健太, 図解でわかる Androidアプリケーション開発教科書, 技術評論社 (ISBN: 4774151890)</p>						
[講義項目]						
<p>第1回: ガイダンス, ソフトウェア企画の発案, プロジェクトマネジメント</p> <p>第2回: ソフトウェア企画の決定, 要求分析</p> <p>第3回: 要求定義と要求仕様書の作成</p> <p>第4回: プロジェクト報告 (1): 企画発表と開発担当班の決定</p> <p>第5回: システム提案・開発計画書の作成</p> <p>第6回: 企画班と開発班とのミーティング</p> <p>第7回: 外部設計・レビュー (1): UMLによるモデリング</p> <p>第8回: 外部設計・レビュー (2)</p> <p>第9回: 企画班と開発班とのミーティング</p> <p>第10回: 内部設計・コーディング (1)</p> <p>第11回: 内部設計・コーディング (2)</p> <p>第12回: コーディング・単体テスト</p> <p>第13回: 総合テスト・受入テスト</p> <p>第14回: プロジェクト報告 (2): 最終成果発表会</p> <p>第15回: 成績発表, 成果物の納品</p>						
[教育方法]						
<p>ソフトウェア開発を具体的に体験するために、チームでの活動が主となる。各週においてチームで行った活動記録を作成してもらう。</p>						
[実務経験のある教員による授業科目の概要]						
山梨県情報通信業協会より派遣された外部講師との連携によって実施される。						
[その他]						
特になし。						

事業名	中堅技術者研修、外部研修
予算額	
決算額	3千円
実施日	令和元年度を通じて開催

事業概要

研修委員会が中堅技術者を対象に、注目される分野について高度技術の研修会を開催する。

【サイバーセキュリティ研修】

1. テーマ 二要素認証について
2. 講師 大西 泰通氏
セキュリティストリング株式会社 代表
3. 開催日 2019年10月9日
4. 場所 山梨県立図書館 イベントルーム
5. 参加者 25名。Y S A会員および山梨県関係者など。
6. 感想 研修は、山梨県サイバーセキュリティ協議会を支援するかたちで行われましたが、Y S A会員以外の方や各種団体の担当者なども多数参加していて、人的交流の面でもいい企画であったと考えます。

外部研修

10月にC E A T E C（幕張メッセで開催）の見学を企画して20名前後の応募をいただきましたが、台風の影響で中央道が通行止めとなったため参加を見送りました。

事業委員会

今年度は、通常実施している、山梨テクノICTメッセの参加、成長産業ICT化事業に加えて、受託事業として、山梨総研、山梨大学などと共同で国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）の委託研究事業に応募して採択されました。電気通信部会では、CPD制度対応の資格取得に向けて調査を行ったが継続となった。

事業名	山梨県IoT推進ラボ（やまなしIoTラボ）
予算額	
決算額	
実施日	令和元年6月～令和2年3月

事業概要

山梨県産業労働部 新事業・経営革新支援課主催の山梨県IoT推進ラボへの支援

山梨県IoT推進ラボの第4回全体会議が2019年6月11日 13:30～山梨県恩賜林会館で行われ、会議では平成30年度の活動報告と令和元年度の活動計画の報告が行われました。

1. 平成30年度の報告

- ・5月23日 山梨県IoT推進ラボ 平成30年度第2回全体会議開催
- ・5月30日 日刊工業新聞主催「スマートファクトリーJapan2018」出展（アグリノベーション）
- ・10月9日 製造業向けIoT講座開催
- ・11月29日 山梨県IoT推進ラボ平成30年度第3回開催
- ・2月27日 IoT推進ラボ主催「IoT推進ラボ合同イベント（ベルサール六本木）」
- ・3月12日 先進地視察（相模原市）

2. 令和元年度の計画

- ・6月11日 山梨県IoT推進ラボ令和元年度第4回開催
- ・10月 山梨県IoT推進ラボ令和元年度第5回開催
- ・10月 製造業向けIoT講座（4日間予定）

事業名	成長産業ICT化促進事業 - アカデミックサロン
予算額	50千円
決算額	40千円
実施日	平成31年4月～令和2年3月

事業概要

山梨大学地域連携室、NPO法人山梨県情報通信研究所と共催で山梨大学の保有する研究テーマ（シーズ）をICT関係者に紹介し商用化（ニーズ）に結び付けてソリューション化を目指す。

■概要

山梨大学工学部の各研究室で保有または研究を進めているテーマ（要素）について、YSA会員を含めたICT関係者および山梨大学工学部OBの工業系（主に製造業）の企業に90分程度で紹介して商品化を目指すとともに、参加者の交流の時間を設けて人間関係の構築を行いました。開催場所は、レストラン「アジール」でした。

◆第1回 4月26日

講師：環境科学研究所 片岡 良太氏

演題：「農業と環境に関する研究の紹介」

◆第2回 6月28日

講師：コンピュータ理工学科 小俣 昌樹氏

演題：「ユーザインターフェイスとユーザエクスペリエンス」

◆第3回 8月23日

講師：機械工学科 大原 伸介氏

演題：「ロボットを支える制御技術」

◆第4回 2月21日

講師：地域食物科学化ワイン科学センター 榎 真一氏

演題：「早期遺伝子診断によるブドウ果実品質向上技術」

事業名	成長産業ICT化促進事業 - 先進地視察
予算額	640千円
決算額	480千円
実施日	令和2年1月23日 ~ 令和2年1月24日

事業概要

山梨県内中小製造業およびICT企業、山梨県などの担当者が、岐阜県内のICT、IoTを導入している先進的な中小企業を訪問して、自社及び山梨県内での導入の参考とする。

1. 訪問先

- (1) 岐阜車体株式会社（岐阜県各務原市テクノプラザにて）
- (2) ソフトピアジャパン（岐阜県各務原市テクノプラザにて）

(3) 岐阜県ロボットS Iセンター見学（岐阜県各務原市）

(4) 東和組立株式会社（岐阜県可児市）

2. 参加者

	企業名	業種		企業名	業種
1	(株)中家製作所	精密金属加工	7	(株)シンク情報システム	I C T
2	(株)土橋製作所	同	8	山梨県新事業・経営革新支援課	団体
3	藤精機(株)	精密板金加工	9	山梨県産業技術センター	団体
4	(株)中村製作所	精密金属加工	10	N P O I Tコーディネータ山梨	I C T
5	山梨積水(株)	プラスチック 成型加工	11	N P O山梨情報通信研究所	I C T
6	アクネシオ(合)	I C T	12	山梨県情報通信業協会	

3. 内容

(1) 岐阜車体株式会社

- ① ハイエースやマイクロバスの塗装組み立てを行うトヨタ系列の企業であり、資本金 11 億、社員数 2 5 0 0 人の会社です。
- ② トレーサビリティを確保するため、個々の細かな検査内容の手書きの記述を音声入力により簡素化を図り工数削減やL P W Aの導入による塗装エリアの温度管理を行っています。また、社員食堂での画像認識の導入やマイクロドローンと組み合わせた画像認識を試行中だそうです。
- ③ 現場担当者の負担軽減（新たなことはさせない）を徹底して導入を成功させました。また、流通している技術と安価な製品のみで導入コストの低減に成功したそうです。

(2) ソフトピアジャパン

- ① 岐阜県は製造業の割合は 1 4 %と全国 1 位の県です。また、岐阜県は、中小企業の割合が 9 9 %と高く、この分野の強力な支援が県の成長戦略の柱であり、I C T、I o Tの導入を強力に支援している公益法人です。
- ② 企業からの相談への対応、指導者の育成、指導者の派遣なども実践しているそうです。

(3) 岐阜県ロボットS Iセンター

- ① ロボットの導入に関するコンサルティングを推進している第 3 セクターの組織。
- ② 国内主要ロボットメーカー（ファナック、東芝等）の装置とのインターフェイスを統合したA P Iでのサービス提供によりロボットの導入を容易にして試行する企業を支援しています。

(4) 東和組立株式会社

- ① 東和製作所の子会社でありショックアブソーバの組立が主要業務。資本金 1 千万、従業員 1 4 3 名の会社。主要取引先は親会社、K Y B。
- ② 支給された部品の組立が主要業務であり付加価値が低いため、コストの効率化が最大のテーマだそうです。このため作業の見える化を推進して、W E Bカメラの導入やモニターの設置によ

り責任者の情報把握を容易にしています。特に導入コストを重視していて国産製品だけでなく海外製品をよくリサーチして購入しているそうです。

- ③ 障害者雇用率が22%を超えていてダイバーシティ企業として表彰されていて全国から注目されています。

4. 感想

- (1) 訪問先の予定時間を大きく超過するほど参加された方々が熱心に質問されていて有意義な企画でした。
- (2) 現場を抱えながら視察を受け入れるのが難しく、視察先の選定が大変でした。。ある程度の規模の会社では広報的な機能をもっていますが、参加者の所属する企業との規模の違いが大きいとあまり参考にならないため、訪問先の交渉は毎回大変でした。



事業名	成長産業 I C T 利活用促進事業 - セミナー開催
予算額	130千円
決算額	145千円
実施日	令和2年2月10日、令和2年3月31日

事業概要

Y S A の会員企業以外、公共団体、商工会議所会員、中央会会員を含めて I C T 利活用セミナーを実施する Y S A の社会貢献事業。

■概要

企業活動で発生するいろいろなデータを低コストで比較的簡単に利用できる分析ツールとしての Microsoft の Power BI について、基本的な知識や適用範囲、機能の説明などの基礎編と実際に業務に適用する場合の事例や問題点などの実践編があり、いずれも実機によりセミナーを開催しました。毎回定員を上回る参加希望者が多いセミナーですが、実践編は新型コロナウイルスの関係から参加者が少なかった。

■「データ分析を身近にする Power BI Desktop」基礎編

講師 : 岩田 薫 N P O 法人 I T コーディネータ山梨 代表他

日時 : 令和2年2月10日

場所 : 山梨県人材開発センター

参加者 : 20名

	会社名	人数		会社名	人数
1	(株)エービーエス	2	9	(株)中村製作所	3
2	(株)中家製作所	2	10	(株)山梨クラリオン	1
3	(株)ササキ	1	11	(株)ジャスト	1
4	(株)ジェイ・チーム	2	12	(株)山梨中央銀行	3
5	(株)加藤電器製作所	1	13	国政建設(株)	1
6	(株)サンフーズ	1	14	豊国園	1
8	(株)キッツ	1			

■「データ分析を身近にする Power BI Desktop」実践編

講師 : 岩田 薫 N P O 法人 I T コーディネータ山梨 代表他

日時 : 令和2年3月31日

場所 : 山梨県人材開発センター

参加者 : 4名

	会社名	人数		会社名	人数
1	(株)山梨クラリオン	1	3	(株)キッツ	1
2	(株)山梨中央銀行	1	4	豊国園	1

事業名	データ連携・利活用による地域課題解決のための実証型研究開発（国立研究開発法人情報通信研究機構 NICT）
予算額	960千円（YSA分）令和元年度
決算額	880千円
実施日	令和元年7月7日 ～ 令和2年度

事業概要

NICTの事業に、「山梨県におけるビッグデータ利活用基盤構築とその有効性に関する実証実験」として2年間の事業として提案して採択された。

■概要

県内観光連盟と連携してさまざまなインバウンドデータを収集して活用するマルチソースマルチユーザー利用環境を構築する。入力側で収集したデータを匿名加工してM2M基盤に蓄積してオープンデータとして利活用を可能とする。このデータをもとに政策決定やマーケティングリサーチの基礎データとして活用できる有効性を明らかにする。従来モバイルキャリアが実施しているモバイル空間統計は高額であるためWi-Fiプローブによる群流解析によりデータを収集する。

■共同提案者

エリアポータル株式会社、山梨大学、山梨県富士山科学研究所、山梨県情報通信業協会（シンク情報システム及び会員）、山梨総研、NEC

■YSAのテーマ

このうちYSAは、ユーザの利便性、操作性、コストを考慮してソーシャルビッグデータの提供スキームを検討して商用サービスを検討する分野を担当します。

2019年度収支報告(案)

自 2019年4月 1日

至 2020年3月31日

1. 事業別収支計算書

収入の部

(単位:円)

科目/事業名		2019年度予算	2019年度決算	差異	備考
会費収入	入会金	100,000	50,000	-50,000	新規加入1社
	年会費	5,740,000	5,670,000	-70,000	2020.3.31現在 正会員58社、賛助会員6社、特別会員1社
	理事特別会費	470,000	440,000	-30,000	
	会費収入合計	6,310,000	6,160,000	-150,000	
事業収入	新入社員研修	310,000	300,000	-10,000	参加者数5社30名
	高度IT技術者研修	0	0	0	
	賀詞交歓会	455,000	511,000	56,000	
	情報交換会他	380,000	364,000	-16,000	納涼会、ゴルフコンペ
	ICT海外事情研修	0	0	0	
	展示会・視察研修	255,000	270,000	15,000	先進地視察
	研修助成	0	0	0	
	資格取得研修	0	0	0	
	異業種交流事業	25,000	20,000	-5,000	
	ICT化促進事業	650,000	687,840	37,840	産業支援機構受託事業
	事務受託事業	828,000	828,000	0	e-ラーニング4社
	事業収入合計	2,903,000	2,980,840	77,840	
補助金収入	県	0	0	0	
	IISA	300,000	300,000	0	
	補助金収入合計	300,000	300,000	0	
受託事業収入	県	300,000	353,584	53,584	インターンシップ事業
	NICT	0	898,638	898,638	NICT受託事業
	受託事業収入合計	300,000	1,252,222	952,222	
負担金収入	事務負担金	1,390,000	1,390,000	0	見守りセンター営業支援金
	その他	0	0	0	
	負担金収入合計	1,390,000	1,390,000	0	
雑収入	受取利息	0	72	72	
	その他	0	22,011	22,011	
	雑収入合計	0	22,083	22,083	
収入合計		11,203,000	12,105,145	902,145	

支出の部

(単位:円)

科目/事業名		2019年度予算	2019年度決算	差異	備考
事業費 研修事業	高度IT技術者研修	55,000	4,704	-50,296	
	新入社員研修	286,400	303,900	17,500	謝金、昼食代、会場費
	新春セミナー	104,000	65,800	-38,200	会場費
	ICT事情視察研修	120,000	0	-120,000	
	展示会・先進地視察	640,000	480,957	-159,043	先進地視察
	資格取得研修	0	0	0	
	階層別セミナー	0	0	0	
	研修事業合計	1,205,400	855,361	-350,039	
事業費 事業推進	ICT化促進事業	130,000	145,570	15,570	謝金、会場費、昼食代
	企業ガイダンス	210,000	257,070	47,070	会場費、印刷費
	合同交流会	25,000	20,000	-5,000	
	産学官連携事業	0	0	0	
	女性活躍プロジェクト	350,000	139,426	-210,574	
	連携プラットフォーム	50,000	40,000	-10,000	アカデミックサロン室料
	テカICTメッセ	240,000	183,820	-56,180	出展料、謝金、昼食代
	事業推進 (総会、定例会等)	2,634,800	2,596,160	-38,640	総会、納涼会、賀詞交歓会、ゴルフコンペ、e-ラーニング、広告費、外部団体
	県委託事業	120,000	143,640	23,640	学生保険、印刷費
	NICT委託事業	0	196,413	196,413	
	事業人件費	312,000	1,676,800	1,364,800	
	事業推進合計	4,071,800	5,398,899	1,327,099	
事業費合計	5,277,200	6,254,260	977,060		
管理費	謝金	0	0	0	
	会議費	100,000	42,735	-57,265	
	使用料	350,000	322,748	-27,252	ホスティングサービス、理事会室料
	消耗品費	50,000	66,624	16,624	事務用品
	印刷製本費	0	0	0	
	旅費	120,000	94,097	-25,903	
	助成金	0	0	0	
	通信運搬費	310,000	207,453	-102,547	電話、FAX、携帯代
	支払手数料	310,000	308,278	-1,722	深澤会計事務所、振込手数料
	委託費	1,400,000	1,400,000	0	産業支援機構
	広告宣伝費	0	0	0	
	受講料	0	0	0	
	雑費	0	57,092	57,092	
	社会活動費	100,000	52,050	-47,950	慶弔金
	管理人件費	1,500,000	1,014,782	-485,218	
	管理福利厚生費	42,000	60,334	18,334	
	備品購入費	0	26,352	26,352	
	負担金(加盟団体会費)	505,500	505,500	0	加入団体年会費
	租税公課	120,000	71,000	-49,000	法人税
	管理費合計	4,907,500	4,229,045	-678,455	
	支出合計	10,184,700	10,483,305	298,605	
当期収支差額	1,018,300	1,621,840	603,540		
前期繰越収支差額	6,369,804	6,369,804	0		
次期繰越収支差額	7,388,104	7,991,644	603,540		

2. 貸借対照表

(単位：円)

科 目	2019年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	5,411,204	4,758,637	652,567
ANIA全国大会準備金	1,000,006	500,000	500,006
未収金	1,947,222	1,211,100	736,122
流動資産合計	8,358,432	6,469,737	1,888,695
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計			
(2) 特定資産			
特定資産合計			
(3) その他固定資産			
その他固定資産合計			
固定資産合計			
資産合計	8,358,432	6,469,737	1,888,695
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	29,402		29,402
未払金	337,386	99,933	237,453
流動負債合計	366,788	99,933	266,855
2. 固定負債			
固定負債合計			
負債合計	366,788	99,933	266,855
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計			
(うち基本財産への充当額)			
(うち特定資産への充当額)			
2. 一般正味財産	7,991,644	6,369,804	1,621,840
(うち基本財産への充当額)			
(うち特定資産への充当額)			
正味財産合計	7,991,644	6,369,804	1,621,840
負債及び正味財産合計	8,358,432	6,469,737	1,888,695

3. 正味財産増減計算書

(単位：円)

科 目	2019年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	6,160,000	6,160,000	
事業収益	4,555,073	4,047,940	507,133
受取補助金等			
受取負担金	1,390,000	1,650,000	-260,000
受取寄附金			
経常収益計	12,105,073	11,857,940	247,133
(2) 経常費用			
事業費			
人件費	1,676,800	1,287,306	389,494
謝金	487,636	461,300	26,336
旅費	152,000	524,150	-372,150
会議費	1,730,158	2,064,811	-334,653
消耗品費	1,936	1,764	172
印刷製本費	112,914	154,224	-41,310
通信運搬費	1,995	1,773	222
使用料・賃借料	719,880	856,050	-136,170
負担金			
委託費			
受講料	703,800	734,400	-30,600
助成金			
広告宣伝費	141,840	138,800	3,040
雑費	525,301	219,367	305,934
支払手数料		5,000	-5,000
管理費			
人件費	1,075,116	1,599,719	-524,603
旅費	94,097	147,686	-53,589
会議費	42,735	109,564	-66,829
謝金			
支払手数料	308,278	308,772	-494
消耗品費	66,624	36,142	30,482
印刷製本費			
通信運搬費	207,453	228,398	-20,945
使用料・賃借料	322,748	349,122	-26,374
負担金	505,500	505,500	
事務委託費	1,400,000	1,400,000	
備品購入費	26,352		26,352
社会活動費	52,050	61,200	-9,150
広告宣伝費			
雑費	57,092	36,120	20,972
租税公課	71,000	115,500	-44,500
経常費用計	10,483,305	11,346,668	-863,363
評価損益等調整前当期経常増減額	1,621,768	511,272	1,110,496
基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等			
評価損益等計			
当期経常増減額	1,621,768	511,272	1,110,496
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
受取利息	72	66	6
受取配当金			
経常外収益計	72	66	6
(2) 経常外費用			
固定資産売却損			
経常外費用計			
当期経常外増減額	72	66	6
当期一般正味財産増減額	1,621,840	511,338	1,110,502
一般正味財産期首残高	6,369,804	5,858,466	511,338
一般正味財産期末残高	7,991,644	6,369,804	1,621,840
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等			
一般正味財産への振替額			
当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高			
指定正味財産期末残高			
III 正味財産期末残高	7,991,644	6,369,804	1,621,840

4. 正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	収益事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
受取会費	6,160,000				6,160,000
事業収益	2,474,851	2,080,222			4,555,073
受取補助金等					
受取負担金		1,390,000			1,390,000
受取寄附金					
経常収益計	8,634,851	3,470,222			12,105,073
(2) 経常費用					
事業費					
人件費	496,460	1,180,340			1,676,800
謝金	487,636				487,636
旅費	136,500	15,500			152,000
会議費	1,730,158				1,730,158
消耗品費	1,936				1,936
印刷製本費	27,864	85,050			112,914
通信運搬費	520	1,475			1,995
使用料・賃借料	494,120	225,760			719,880
負担金					
委託費					
受講料		703,800			703,800
助成金					
広告宣伝費	141,840				141,840
雑費	218,963	306,338			525,301
支払手数料					
管理費					
人件費	766,908	308,208			1,075,116
旅費	67,122	26,975			94,097
会議費	30,484	12,251			42,735
謝金					
支払手数料	219,903	88,375			308,278
消耗品費	47,525	19,099			66,624
印刷製本費					
通信運搬費	147,982	59,471			207,453
使用料・賃借料	230,225	92,523			322,748
負担金	360,586	144,914			505,500
事務委託費	998,655	401,345			1,400,000
備品購入費	18,798	7,554			26,352
社会活動費	37,129	14,921			52,050
広告宣伝費					
雑費	40,726	16,366			57,092
租税公課		71,000			71,000
経常費用計	6,702,040	3,781,265			10,483,305
評価損益等調整前当期経常増減額	1,932,811	-311,043			1,621,768
基本財産評価損益等					
特定資産評価損益等					
投資有価証券評価損益等					
評価損益等計					
当期計上増減額	1,932,811	-311,043			1,621,768
2. 経常外増減の部					
(1) 計上外収益					
受取利息		72			72
受取配当金					
経常外収益計		72			72
(2) 計上外費用					
固定資産売却損					
経常外費用計					
当期経常外増減額		72			72
当期一般正味財産増減額	1,932,811	-310,971			1,621,840
一般正味財産期首残高	6,608,468	-238,664			6,369,804
一般正味財産期末残高	8,541,279	-549,635			7,991,644
II 指定正味財産増減の部					
受取補助金等					
一般正味財産への振替額					
当期指定正味財産増減額					
指定正味財産期首残高					
指定正味財産期末残高					
III 正味財産期末残高	8,541,279	-549,635			7,991,644

5. 財産目録

2020年3月31日現在
(単位:円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	
普通預金	5,411,204
山梨中央銀行城南支店	
ANIA全国大会準備金	1,000,006
未収金	1,947,222
流動資産合計	8,358,432
資産合計	8,358,432
II 負債の部	
1. 流動負債	
預り金	29,402
未払金	337,386
流動負債合計	366,788
負債合計	366,788
III 正味財産の部	
正味財産合計	7,991,644
負債及び正味財産合計	7,991,644

6. 計算書類に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 資金の範囲について

資金の範囲については、現金・預金・未払金・預り金を含めている。

2 次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	金 額
普通預金	5,411,204
ANIA全国大会準備金	1,000,006
未収金	1,947,222
未払金	337,386
預り金	29,402
合計	7,991,644
次期繰越収支差額	7,991,644

〒400-0055
甲府市大津町2192-8

一般社団法人 山梨県情報通信業協
会 様



267- -ト- 0 YDM024 000826# 000853

山梨中央銀行
城南支店
〒400-0845
山梨県甲府市上今井町177-5
TEL. 055(241)8711



株式会社 山梨中央銀行
城南支店

残高証明書

令和2年 3月31日現在における貴名義の当行との
お取引残高は、下記のとおり相違ないことを証明いたします。

令和2年 4月 3日

科目	口座番号	金額 (円)	備考
普通預金	333388	¥5,411,204	
普通預金	395653	¥1,000,006	
普通預金	410790	¥0	
預金合計		¥6,411,210	
*	* * *	* * * * *	* *
		貸出金該当なし	
		以下余白	

1. この証明書の金額は訂正いたしません。 1頁
 2. 証明基準日の現在残高については、未確定の手形・小切手がある場合、当該金額を含めて金額欄に表示しています。



監査報告書

一般社団法人 山梨県情報通信業協会
会長 飯室 元邦 殿

監事2名は、一般社団法人山梨県情報通信業協会定款第24条第5項の規程により、2019年度の当協会の収入および支出書類等諸帳簿を精査したところ、正確に処理され、かつその業務が正常に運営されていたことを確認しましたので、報告いたします。

2020年 5月14日

監事

渡辺良樹



監事

深澤和宏



【第2号議案】

2020年度～2021年度役員候補（案）

理事

役職	氏名	会社名・役職	
理事	飯室 元邦	(株)YSKe-com 代表取締役社長	重任
理事	中込 裕	(株)システムインナカゴミ 代表取締役社長	〃
理事	長坂 正彦	(株)ワイ・シー・シー 代表取締役社長	〃
理事	鈴木 新一	(株)デジタルアライアンス 代表取締役社長	〃
理事	清水 久	(株)サンテレコム 代表取締役社長	〃
理事	宿沢 一六	(株)ネオシステム 代表取締役社長	〃
理事	井上 清美	(株)ブリリアント 代表取締役社長	〃
理事	中村 一政	(株)日本ネットワークサービス 代表取締役社長	〃
理事	中尾 均	(株)エヌディエス 代表取締役社長	〃
理事	吾妻 幸彦	(株)コンピュータマインド 代表取締役会長	〃
理事	清水 宏	(株)エスエスワイ 代表取締役社長	〃
理事	丸茂 正樹	(株)マルモ 代表取締役社長	〃

監事

役職	氏名	会社名・役職	
監事	深澤 和宏	税理士法人深澤会計事務所 税理士・所長	重任
監事	渡邊 良樹	山梨パナソニックシステム(株) 代表取締役社長	〃

【報告事項】

2020年度事業計画

自 2020年4月 1日

至 2021年3月31日

1. 業界を取り巻く情勢と基本認識について

■新型コロナウイルスによるダメージ

日本経済は、米中の貿易摩擦や英国のEU離脱など経済へ懸念、消費税の10%へ増税後の影響等がやや薄らぐなかで発生した新型コロナウイルス感染症が予想以上の範囲で拡大し、世界各国の経済活動を大きく低下させているだけでなく、我々の生活面にも大きなマイナスインパクトを発生させています。このためオリンピックも1年間延期となっています。新型コロナウイルスは、時間をかけて全世界を蔓延しているため収束までかなりの時間を要すると考えられ、グローバル化されたサプライチェーンが構築されている現在の経済活動においては回復に非常に長い時間が必要と考えられます。また、当初は人の移動が制限されたため観光関連（旅行会社、宿泊施設、テーマパーク等）への影響がクローズアップされましたが、感染の拡大に伴いほとんどの産業での活動が制限される結果となっています。このため、我々のICT業界に対する影響が見えない状況となっています。

一方、従来、オリンピック時の人の移動を制限する目的で推奨されたテレワーク（在宅勤務）が、新型コロナウイルスの感染拡大で感染を防止するツールとして利用が拡大しています。また、このために必要なネットワーク構築、セキュリティの確保、テレビ会議等のICT技術が特に注目を集めています。産業としての視点だけでなく社会的な問題への対応でもICTに対する期待と要求は高いと考えます。

短期的には今回のダメージの影響が見通せませんが、中長期的な視点では、ICT産業は、ほとんどの産業の（従来インフラ産業と呼ばれている産業に対しても）実質的なインフラとしての利用が進んでいます。経済が進展しても後退しても生産性、合理性を追求するツールとして利用され内閣府・財務省の「法人企業景気予測」やJISAが実施している「情報サービス産業動向調査」にあるように成長産業であることに変わりはないと考えます。

また、新型コロナウイルスの影響で話題が少なくなっておりますが、IoT、AI、RPAについては、製品化・サービス提供が進み、単独またはこれらの技術を複合的に組み合わせたサービスの提供が進むと考えます。また、国が推進する5G（第5世代移動通信）については、総務省が中心となって全産業を対象として地域ごとの導入を先行させる「ローカル5G」の実証が複

数地域で開始されます。山梨県内でもこの指定を受けていますので見学等も計画したいと思いません。

技術者不足は今後も継続すると考えます。これは、ICT産業（特にソフトウェア）の領域が、従来の製品・システムやサービスを維持しつつ、IoT、AI、RPAと言った新たな技術に対応した新たな技術者を必要とするためです。協会としては、今後もICT産業の将来性や協会の活動のPRを通じて要員確保の施策を実施してまいります。短期的には、新型コロナウイルスにより大手企業の業績が低下する中で採用が手控えられる傾向から、中小企業として人材確保が有利に働く可能性があると考えられます。

■ ANIA全国大会延期へ

2020年9月10日（木）、11日（金）に山梨県（甲府市）で開催予定でしたANIA（一般社団法人全国地域情報産業団体連合会）の全国大会は新型コロナウイルスの感染者が拡大し、また政府から緊急事態宣言も発出され、収束のめども立たない状況にあります。このため開催延期要請を行いANIA理事会で承認され開催を1年間延期することとしました。

■ 女性活躍プロジェクト

2019年度に「女性活躍推進プロジェクト」を総務委員会の中に発足させ、会員企業で働く女性11名により女性が働きやすい環境を女性の視点で提言をいただきました。今年度は、このなかからいくつか実行できる施策を検討していただき実践することにより「働きやすいICT産業、働きやすい会社への変革」を目指してまいります。また、新たなメンバーも募集しているいろいろな意見も頂きたいと思しますので奮ってご参加ください。

2. 委員会活動計画

委員会活動は、総務委員会、企画委員会、研修委員会、事業委員会の4つを常務委員会として活動を行います。

委員会活動は可能な限り参加者を増やして会員相互の交流を活発にする活動を継続します。昨年は「女性活躍プロジェクト」を立ち上げ会員の女性社員の皆さんによる運営を行っていただきましたが、今年もさらに皆さんに参加いただける事業の企画と実行を目指します。

委員会の重点方針は以下の通りとします。

- ◆ 会員が参加できる（しやすい）事業運営を行う
- ◆ 産学官連携事業を通じて幅広く人材の確保を推進する
- ◆ 先端 I C T 技術者と高度情報技術者の育成に注力する
- ◆ 一般社団法人として、広く山梨県内への啓もう活動と C S R の推進を図る

委員会名簿

■ 総務委員会

	会社名	総務委員名
委員長	(株)ワイ・シー・シー	長坂 正彦
副委員長	(株)ブリリアント	井上 清美
	(株)エービーエス	油川 竜也
	(株)エムアイエー	今福 豪晃
	(株)オネスト	宮城 隆男
	(株)カルク	田中 雅貴
	テクト(株)	宮下 崇
	(株)日本ネットワークサービス	中村 一政
	(株)富士情報	渡辺 直企
	(株)マネージ・ソフト	池田 佳寿光
	(株)マルモ	丸茂 正樹
	(株)山梨ニューメディアセンター	望月 裕
	(株)ワイ・シー・シー	大柴 昭彦

■ 企画委員会

	会社名	企画委員名
委員長	(株)システムインナカゴミ	中込 裕
副委員長	(株)コンピュータマインド	吾妻 幸彦
	(株)アイ・エス・ビー	福田 二八
	(株)エーティーエルシステムズ	山田 修
	グローバルデザイン(株)	保坂 晃代
	(株)システムインナカゴミ	石井 和彦
	(株)シップス	長田 達彦
	(株)ブリリアント	福崎 祐一郎
	リコージャパン(株)山梨支社	鈴木 淳

■ 研修委員会

	会社名	研修委員名
委員長	(株)デジタルアライアンス	鈴木 新一
副委員長	NPO法人ITコーディネータ山梨	岩田 薫
	(株)ウインテックコミュニケーションズ	田丸 淳一
	(株)コム	高山 和弘
	(株)システムインナカゴミ	石井 和彦
	(株)ユニ・テクノロジー	天野 武彦
	(株)YSKe-com	沼 光博
	(株)ワイ・シー・シー	小林 茂幸

■ 事業委員会

	会社名	事業委員名
委員長	(株)サンテレコム	清水 久
副委員長	(株)YSKe-com	廣瀬 不二夫
	(株)エスエスワイ	清水 宏
	(株)エヌディエス	中尾 均
	(株)オネスト	宮城 隆男
	(株)甲府情報システム	長倉 文仁
	(株)シー・シー・ダブル	井戸 隆一
	(株)ジインズ	廣瀬 光男
	(株)シンク情報システム	高山 尚文
	(株)ディーエスピー	石井 隆
	中楯電気(株)	今泉 弘明
	日本システムウエア(株)山梨ITセンター	小林 宏充
	(株)ネオシステム	宿沢 一六
	(株)ワイ・シー・シー	清水 洋

■ 電気通信部会

	会社名	部員名
部会長	(株)エヌディエス	中尾 均
	(有)峡西シーエーテーブイ	飯沼 一彦
	桑原電業(株)	桑原 大輔
	(株)サンテレコム	清水 久
	テクト(株)	宮下 崇
	中楯電気(株)	今泉 弘明
	(株)西井電設	西井 芳信
	日昇電気工業(株)	樋口 俊彦
	日本電子サービス(株)	飯田 幸人
	(株)ふじでん	鈴木 正仁
	古屋電機(株)	古屋 里義
	堀内電気(株)	堀内 慎也
	山梨パナソニックシステム(株)	渡邊 良樹

総務委員会の計画 - 長坂委員長

【概略】

総務委員会は、会員企業間の人的交流や、会員への情報提供、会員企業がメリットを感じるとともに、運営に参加できる環境を整えてまいります。本年度は、昨年度スタートした「女性活躍プロジェクト」の報告を受け、Y S Aとして実践していく年度と考えています。また、「働き方改革」を推進するために啓蒙活動を推進してまいります。さらに来年度に延期された山梨県で開催されるA N I A全国大会へも全面的に協力してまいります。

【主な実施項目】

1. 会員の加入促進

協会の活動内容やメリットを幅広くアピールして新規会員獲得を行います。山梨県内の企業数は少ないが、まだ、未訪問企業への訪問を含めて勧誘を行い2社の会員増加を目指します。

2. 定例会議の開催

- (1) 通常総会（6月5日）
- (2) 賀詞交歓会（1月）
- (3) セミナーの開催（最新技術動向、働き方改革等）

3. 会員間の親睦

- (1) ゴルフコンペの開催（今年度は新型コロナウイルスの関係から日程を変更します）。
- (2) オリンピック・パラリンピックに関連したスポーツイベントの実施

4. 女性活躍P Jの推進

提言をもとにP Jとして会員向けに実践できる内容を計画・立案して実践します。また、P Jメンバーは継続することを前提にしますが現業と並行していることを考慮して、入れ替え・拡大も検討します。

5. 外部期間・団体との交流事業の推進

(1) J I S A（情報サービス産業協会）

J I S Aの役員に就任していることを踏まえ新たな事業の展開を検討します。

(2) メトロ（広域首都圏情報団体協議会）

事務局会議（7月、11月開催予定）、メトロエリアグリーン（親睦コンペ）、メトロ幹部会（3月予定）への参加を通じて情報収集を進めます。

(3) A N I A（全国地域情報産業団体連合会）

総会（7月）、理事会、新春交歓会、事務局長会議への参加を通じて情報収集とともに政策提言の実現を進めます。

(4) 外部諸団体との交流

山梨県、I P A（情報処理推進機構）、山梨県地域I C T推進協議会、やまなし産業支援機構、山梨大学、山梨総合研究所

【概略】

企画委員会では、山梨県の事業を活用して、山梨県内各学校との連携によりICT人材の発掘確保のため、インターンシップの実施、業界紹介セミナー、企業ガイダンスを中心に実施します。売り手市場のため厳しい状況が続いていますが、活動を継続させ認知度の向上も図ってまいります。また、YSAの理念や活動内容等の認知度向上のため、メディアを通じて広報していくことを継続して検討します。また、SNSを活用し、YSAの活動を積極的に発信してまいります。

【主な実施項目】

1. ICT人材の確保

(1) インターンシップ

夏季休暇の実施を前提に活動する。受け入れ企業数を15社程度、参加学生数を30名程度として実施します。

(2) 業界紹介セミナー

12月から1月にかけて県内8学校（山梨県立大学、山梨大学、甲府商科専門学校、山梨県立産業技術短期大学校、都留文科大学、サンテクノカレッジ、山梨学院大学、山梨英和大学）を対象として、業界全体の紹介、若手企業社員の体験談の紹介を行います。

(3) 企業ガイダンス

業界紹介セミナーで紹介して2月中旬に実施する。また、首都圏、近隣大学への告知も継続して行います。昨年は20%程度学生が増加しましたが、今年度はさらなる増加を目指して活動します。

2. 広報活動

- ・総務省、経済産業省、山梨県の事業の会員への情報提供
- ・JISA、ANIA、山梨県地域ICT推進協議会、山梨県IoT推進ラボ等の情報提供（必要に応じて、機械電子工業会等の県内者団体との連携も視野に入れ認知度の向上を図る）。
- ・YSA認知度向上のための、メディア（新聞、ラジオ、テレビ）活用の検討。
- ・SNS(Twitter、facebook、LINE)を活用した情報の発信。

3. 新たな取り組みの検討

(1) e-スポーツの開催の検討

開催場所の環境の調査も含めて全国での実施状況の調査を行います。

(2) プログラミング支援の検討

4月より実施される小学校のプログラミング教育の実施状況をもとに身の丈に合った支援内容の検討を行います。

【概略】

今年度は最新の技術や、特に関心の高いセキュリティ関連の課題についてセミナー等を実施します。また、昨年実施できなかった近隣の諸団体との交流を行い、IT関連の最新情報と技術を共有してまいります。

【主な実施項目】

3. 新入社員研修

会員企業の新入社員を対象としてマナー研修（電話応対、名刺交換、仕事の常識等）を中心とした新入社員研修を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの関係から実施を見送りました。

4. 中堅技術者研修の実施

山梨サイバーセキュリティ研究会と共催で年間を通じてセミナーを実施します。対象はYSA会員だけでなく幅広く参加者を募集することにより協会の知名度の向上を図ります。

(ア) 4月24日(金) IPアドレスに関するセキュリティ(仮称) ⇒中止となりました。

(イ) 7月10日(金) ルーティングとセキュリティ(仮称)

(ウ) 10月23日(金) IPV6ハンズオンセミナー

(エ) 1月未定日 CA(認証関係、オリンピックを終えて)

3. 産学官連携事業

山梨大学工学部コンピュータ理工学科との連携事業として、会員企業(4社程度)から講師を派遣してシステム開発演習の支援を行います。

4. 見学・技術交流

(1) CEATEC、の見学、

(2) 新技術実践企業訪問

業種を問わず、山梨県内の企業と同程度の近隣企業で先進的な技術を活用している企業を訪問してビジネス化の参考とします。

【概略】

事業委員会では、国や県の受託事業の推進とともに、県内他産業へのICTの利活用の促進を図ります。

また、電気通信部会では、CPD制度対応の技術研修の実施を目指して、昨年を引き続いて山梨県内での開催の実施の検討を継続してまいります。

【主な実施項目】

1. NICT事業の推進

2019年度にエリアポータル社・山梨総合研究所・山梨大学等と共同で採択されたNICT事業（ビッグデータを活用した地域課題解決の実証実験）の最終年度として事業を完遂させます。今年度は、物作りの要素もあるため会員企業からの参加も検討します。

2. 成長産業へのICT化促進事業

(ア) 先進地視察

NPO山梨情報通信研究所と共同で会員企業以外の企業からの参観してもらい、関東近辺の企業を対象に11月～1月ICT利活用状況の視察を行います。

(イ) アカデミックサロンの開催支援

山梨大学の持つ研究内容（シーズ）をもとにICT産業での商品化への参考とセミナーを年に4回程度開催します。

(ウ) ITハンズオンセミナー

ITコーディネータ山梨と共催で、会員企業だけでなく一般企業・団体も対象として、より実践的なテーマをハンズオン形式で開催します。

3. 山梨テクノICTメッセへの出展

知名度の向上を含めて毎年11月に開催されるメッセに出展します。2ブース確保して、ITコーディネータ山梨との共同によるICT相談コーナーの開設、NPO山梨県安心安全見守りセンター等のパネル展示、山梨学院大学伊藤研究室との共同による子供プログラミング教室の開催を行います。

4. CPD制度対応の講習会開催の検討（電気通信部会）

CPD制度の資格取得のための条件や講習会の県内開、必要な費用等について引き続き調査を継続します。また、会員企業以外の団体等も含めて実施に必要な規模を算定します。

関係する外部団体

◇ J I S A（一般社団法人情報サービス産業協会）

全国の情報サービス産業約600社で構成された国内最大の情報サービス産業団体であり、情報サービスに係る事業の基盤整備を通じ、情報サービス産業の健全な発展を図るとともに、我が国の情報化を促進し、もって経済・社会の発展に寄与することを目的としている。当協会の長坂副会長がJ I S Aの副会長、井上理事が関東地区会の会長に就任しております。

◇ A N I A（一般社団法人全国地域情報団体連合会）

北海道から九州までの各県の情報通信産業団体の18正会員と企業会員、および他の全国規模の情報団体（一般社団法人IT団体連盟等）から構成され、地域の情報通信産業の発展のため、また情報通信インフラの整備や未来の社会づくりのための活動を行うことを目的としている。当協会の井上理事がA N I Aの理事に就任しております。

◇ 広域メトロ（広域首都圏情報団体連絡協議会）

6都県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、福島県、山梨県）の情報団体で構成され、主に各都県の活動の情報交換や相互の交流を行うことを目的として設立されました。J I S AやA N I Aに比較して、地域性もあり、また、小規模であり人間関係を構築しやすいため身近な問題の意見交換をすることができる組織であります。I I T（東京都情報サービス産業協会）で実施しているe-Learning事業はY S A会員でも活用しています。

3. 収支予算

(1) 事業別収入

(単位:円)

科目/事業名		2020年度予算	2019年度実績	増減	備考
会費収入	入会金	50,000	50,000	0	新規加入1社
	年会費	5,680,000	5,670,000	10,000	
	理事特別会費	440,000	440,000	0	
会費収入合計		6,170,000	6,160,000	10,000	
事業収入	新入社員研修	200,000	300,000	-100,000	参加者20名
	高度IT技術者研修	0	0	0	
	賀詞交歓会	455,000	511,000	-56,000	7,000円×65名
	情報交換会他(参加費)	48,000	364,000	-316,000	ゴルフコンペ3,000円×16名
	ICT事情視察研修	0	0	0	
	展示会・視察研修	255,000	270,000	-15,000	展示会視察3,000円×10名 先進地視察15,000円×15名
	研修助成	0	0	0	
	資格取得研修	0	0	0	
	異業種交流事業	25,000	20,000	5,000	合同交流会5名
	成長分野人材育成事業	0	0	0	
	ICT化促進事業	690,000	687,840	2,160	情報通信活用促進事業費(機構)
	事務受託事業	880,000	828,000	52,000	e-ラーニング4社
	産学官連携事業	0	0	0	
事業収入合計		2,553,000	2,980,840	-427,840	
補助金収入	JISA	300,000	300,000	0	JISA地域高度化事業
		0	0	0	
補助金収入合計		300,000	300,000	0	
受託事業収入	県	353,000	353,584	-584	やまなし産学官連携人材育成事業
	NICT	962,000	930,000	32,000	ビッグデータ実証
受託事業収入合計		1,315,000	1,283,584	31,416	
負担金収入	事務負担金	1,390,000	1,390,000	0	安心安全見守りセンター 営業支援金
	その他	0	0	0	
負担金収入合計		1,390,000	1,390,000	0	
雑収入	受取利息	0	72	-72	
	その他	20,000	22,011	-2,011	ANIA旅費負担
雑収入合計		20,000	22,083	-2,083	
合計		11,748,000	12,136,507	-388,507	

(2) 事業別支出

(単位:円)

科目/事業名	2020年度予算	2019年度実績	増減	備考	
事業費 研修事業	高度IT技術者研修	26,000	4,704	21,296	会議費10k, 室料16k
	新入社員研修	200,000	303,900	-103,900	謝金150k, 昼食代30k, 室料20k
	新春セミナー	115,000	65,800	49,200	謝金50k, 室料55k
	ICT事情視察研修	0	0	0	
	展示会・先進地視察	625,000	480,957	144,043	バス代(展示会120k、先進地240k) 先進地視察懇親会120k 先進地視察宿泊費140k
	資格取得研修	0	0	0	
	階層別セミナー	0	0	0	
研修事業合計	966,000	855,361	110,639		
事業費 事業推進	ICT化促進事業(CIO研修)	150,000	145,570	4,430	謝金120k, 室料10k, 昼食代20k
	企業ガイダンス	258,000	257,070	930	室料190k, チラシ印刷、配布物70k
	合同交流会	25,000	20,000	5,000	参加費25k
	産学官連携事業	127,000	0	127,000	謝金64k, 会議費63k
	女性活躍プロジェクト	366,000	139,426	226,574	謝金50k, 会議費300k, 旅費16k
	連携プラットフォーム	50,000	40,000	10,000	アカデミックサロン会場費5回
	テクノICTメッセ	184,000	183,820	180	相談コーナー、プレゼン60k 昼食代24k, 2ブース使用料90k バナー広告10k
	事業推進	2,519,000	2,596,160	-77,160	謝金(賀詞交歓会)50k 会議費(総会510k, 賀詞交歓会510k, ゴルフコンペ40k, ANIA60k, JISA40k, メトロ幹部会90k, メトロ事務局会議50k) 室料(総会50k, 賀詞交歓会50k) 総会議案書30k メトロ事務局会議旅費20k ゴルフコンペ賞品代、年賀広告140k e-ラーニング748k メトロコンペ参加費120k
	県委託事業(インターンシップ)	172,900	143,640	29,260	チラシデザイン・印刷46k, 学生保険料127k
	NICT委託事業	749,400	196,413	552,987	謝金50k, 会議費50k, 旅費28k, 委託費450k, 雑費170k
事業労務費	820,000	1,628,033	-808,033	事務員、NICT人件費	
事業推進合計	5,421,300	5,350,132	71,168		
事業費合計	6,387,300	6,205,493	181,807		
管理費	謝金	0	0	0	
	会議費	50,000	42,735	7,265	やまなし産業支援機構
	使用料	360,000	322,748	37,252	ホスティングサービス270k 理事会90k
	消耗品費	80,000	66,624	13,376	事務用品等
	印刷製本費	0	0	0	
	旅費	120,000	94,172	25,828	
	助成金	0	0	0	
	通信運搬費	200,000	207,453	-7,453	
	支払手数料	310,000	308,278	1,722	会計事務所260k, 手数料50k
	委託費	1,400,000	1,400,000	0	産業支援機構
	広告宣伝費	0	0	0	
	受講料	0	0	0	
	雑費	60,000	57,092	2,908	
	社会活動費	50,000	52,050	-2,050	慶弔費
	管理人件費	650,000	1,042,368	-392,368	事務員
	管理福利厚生費	3,600	60,334	-56,734	
	備品購入費	30,000	26,352	3,648	
負担金(加盟団体会費)	505,500	505,500	0	年会費 JISA245k, NPO10k, ANIA160k, 山梨県職業能力開発10k, ICT推進協議会20k, 山梨県中央会48k, ITC山梨12k	
納税準備金	100,000	71,000	29,000	県、市法人住民税、法人税	
管理費合計	3,919,100	4,256,706	-337,606		
ANIA大会準備金	300,000	500,000	-200,000		
合計	10,606,400	10,962,199	-355,799		

※ ANIA 全国大会については、本体会計とは別に特別会計として収支を管理します。

(3) 正味財産増減計画書

(単位:円)

	2020年度	2019年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
会費	6,170,000	6,160,000	10,000
事業収益	2,553,000	2,980,840	-427,840
その他収益	3,025,000	2,995,667	29,333
経常収益計	11,748,000	12,136,507	-388,507
(2) 経常費用			0
事業費	6,387,300	6,205,493	181,807
人件費	820,000	1,628,033	-808,033
謝金	599,000	487,636	111,364
旅費	203,900	152,000	51,900
会議費	1,932,000	1,730,158	201,842
消耗品費	10,000	1,936	8,064
印刷製本費	146,000	112,914	33,086
通信運搬費	2,500	1,995	505
使用料・貸借料	889,000	719,880	169,120
負担金			0
委託費	450,000	0	450,000
受講料	748,000	703,800	44,200
助成金	0	0	0
広告宣伝費	150,000	141,840	8,160
雑費	436,900	525,301	-88,401
支払手数料	0	0	0
管理費	3,919,100	4,256,706	-337,606
人件費	653,600	1,102,702	-449,102
旅費	120,000	94,172	25,828
会議費	50,000	42,735	7,265
謝金	0	0	0
支払手数料	310,000	308,278	1,722
消耗品費	80,000	66,624	13,376
印刷製本費	0	0	0
通信運搬費	200,000	207,453	-7,453
使用料・貸借料	360,000	322,748	37,252
負担金	505,500	505,500	0
事務委託費	1,400,000	1,400,000	0
備品購入費	30,000	26,352	3,648
社会活動費	50,000	52,050	-2,050
広告宣伝費	0	0	0
雑費	60,000	57,092	2,908
租税公課	100,000	71,000	29,000
経常費用計	10,306,400	10,462,199	-155,799
当期経常増減額	1,441,600	1,674,308	-232,708
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計			
(2) 経常外費用			
準備金			
経常外費用計	0	0	
当期経常外増減額	0	0	
当期一般正味財産増減額	1,441,600	1,674,308	-232,708
一般正味財産期首残高	8,044,112	6,369,804	1,674,308
一般正味財産期末残高	9,485,712	8,044,112	1,441,600
II 指定正味財産増減の部			
III 正味財産期末残高	9,485,712	8,044,112	

(4) 貸借対照表

2021年3月31日予想

(単位：円)

科 目	2020年度予算	2019年度	増 減
I 資産の部			0
1. 流動資産			0
現金預金	7,828,712	5,111,204	2,717,508
未収金	1,657,000	2,278,584	-621,584
ANIA全国大会準備金		1,000,006	-1,000,006
流動資産合計	9,485,712	8,389,794	1,095,918
2. 固定資産			0
(1) 基本財産			0
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			0
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			0
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	0	0	0
資産合計	9,485,712	8,389,794	1,095,918
II 負債の部			0
1. 流動負債			0
預り金		55,052	-55,052
未払金		290,630	-290,630
流動負債合計	0	345,682	-345,682
2. 固定負債			0
固定負債合計	0	0	0
負債合計	0	345,682	-345,682
III 正味財産の部			0
1. 指定正味財産			0
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)			0
(うち特定資産への充当額)			0
2. 一般正味財産	9,485,712	8,044,112	1,441,600
(うち基本財産への充当額)			0
(うち特定資産への充当額)			0
正味財産合計	9,485,712	8,044,112	1,441,600
負債及び正味財産合計	9,485,712	8,389,794	1,095,918

一般社団法人 山梨県情報通信業協会(YSA) Yamanashi Information and Communication Services Association



一般社団法人山梨県情報通信業協会

〒400-0055 甲府市大津町2192-8 アイメッセ3階
TEL (055)243-2046 FAX (055)206-0351
URL <https://www.ysa.or.jp/>
e-mail staff@ysa.or.jp